

【漁況】 [マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2023年は9.2万トンとなりました。

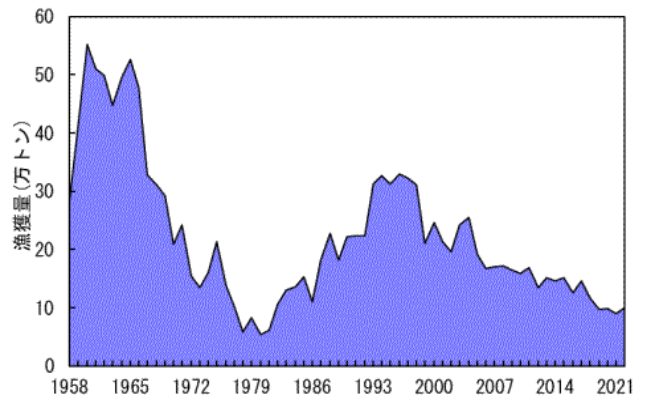


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の 2025 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、7 月に五島下、串木野沖、甑東で小・豆銘柄（0～1 歳魚：2024～2025 年生まれ）主体の漁場が形成されました。8 月には五島下で小・豆・仔銘柄（0～1 歳魚：2024～2025 年生まれ）主体の漁場が形成されました。9 月には五島下で大銘柄（2～3 歳魚：2022～2023 年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、7 月に開聞沖で豆銘柄（1 歳魚：2024 年）、小銘柄（1 歳魚：2024 年生まれ）主体の漁場が形成されました。8、9 月には主立った漁場は形成されませんでした。

4 港計のまき網では 356 トンの水揚げで、前年比 66%，平年比 106%でした。

3. 県内の 2025 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（0～1 歳魚：2024～2025 年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年を下回り、平年並になるものと考えられます。

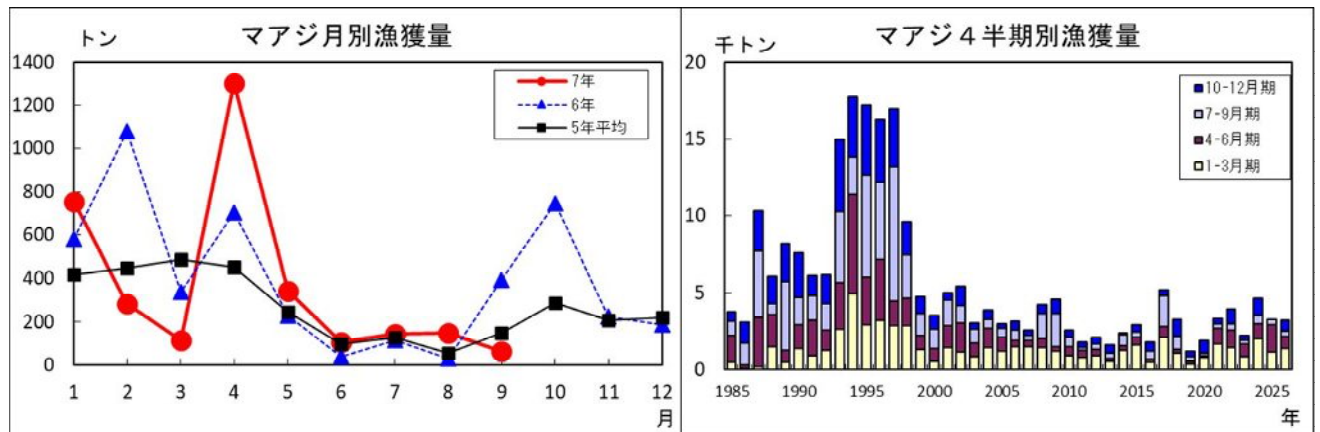


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年の平均値（AV），2025 年 9 月 18 日までの水揚げ量を使用
（以下同じ）

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2023年は27万トンとなりました。

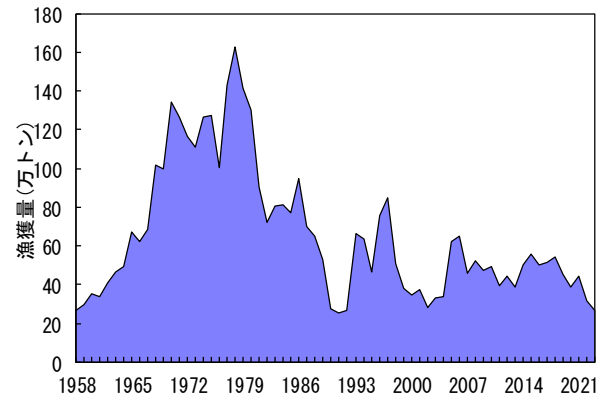


図 全国のサバ類漁獲量の推移

年

2. 県内の2025年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、7月に五島下、甑東で豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）主体の漁場が形成されました。8月には甑東、牛深沖、五島下で豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）、牛深沖、五島下で小銘柄（1歳魚：2024年）主体の漁場が形成されました。9月には五島下で大銘柄（4歳魚以上：2021年以前）、中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、7月に西新曾根で大銘柄（4歳魚以上：2021年以前）、草垣、馬毛、津倉瀬、宇治で中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場が形成されました。8月に津倉瀬、湯瀬・梅吉、島間沖、馬毛島で中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場、島間沖、ヤクロ瀬、馬毛島で豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）主体の漁場が形成されました。9月に竹島、島間沖、開間沖、枕崎沖で豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）、津倉瀬、種子島南、屋久島・屋久島南で中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では1,457トンの水揚げで、前年比89%、平年比72%でした。

3. 県内の2025年10～12月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄以下（0～3歳魚：2022～2025年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年を下回り、平年並になるものと考えられます。

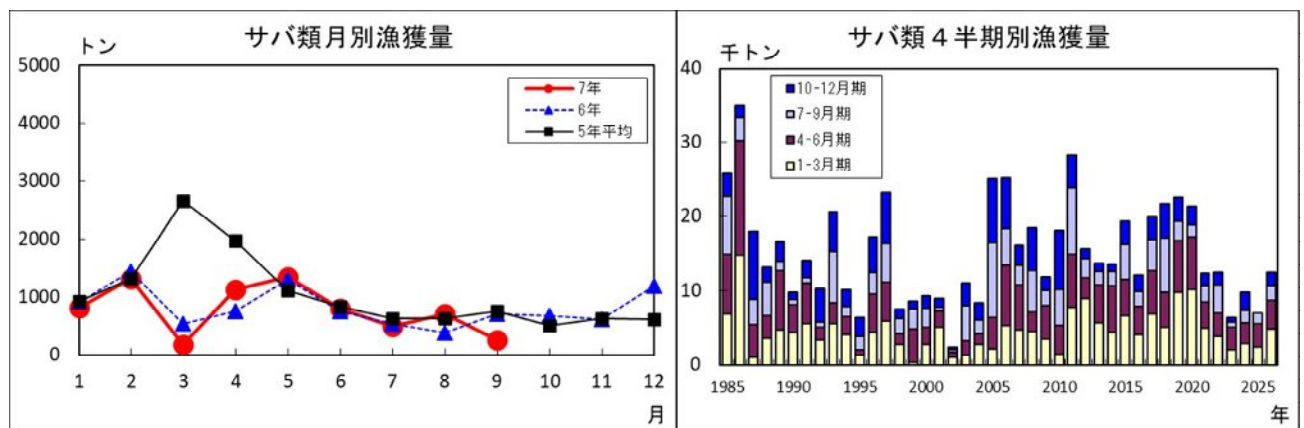


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2023年は69万2千トンとなりました。

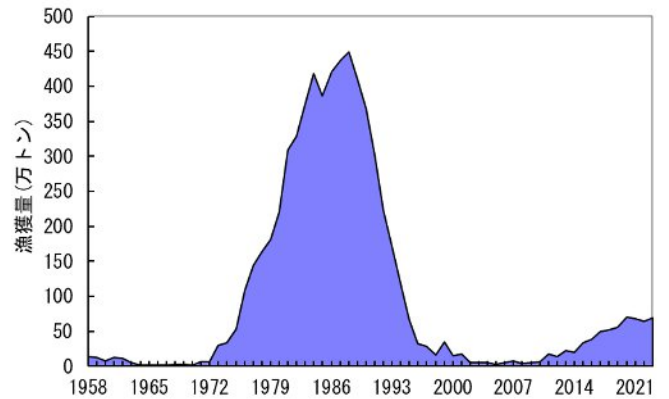


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の2025年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島、縄瀬、甑東、牛深に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎、開聞、野間池に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小～中羽（0歳：2025年）主体に1,229トンの水揚げで、前年比78%、平年比83%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0歳：2025年）主体に275トンの水揚げで、前年比88%、平年比138%でした。

3. 県内の2025年10～12月期の見とおし

漁獲主体：10～12月は中羽（0歳魚：2025年）主体

来遊量：前年、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年、平年を上回ると考えられます。

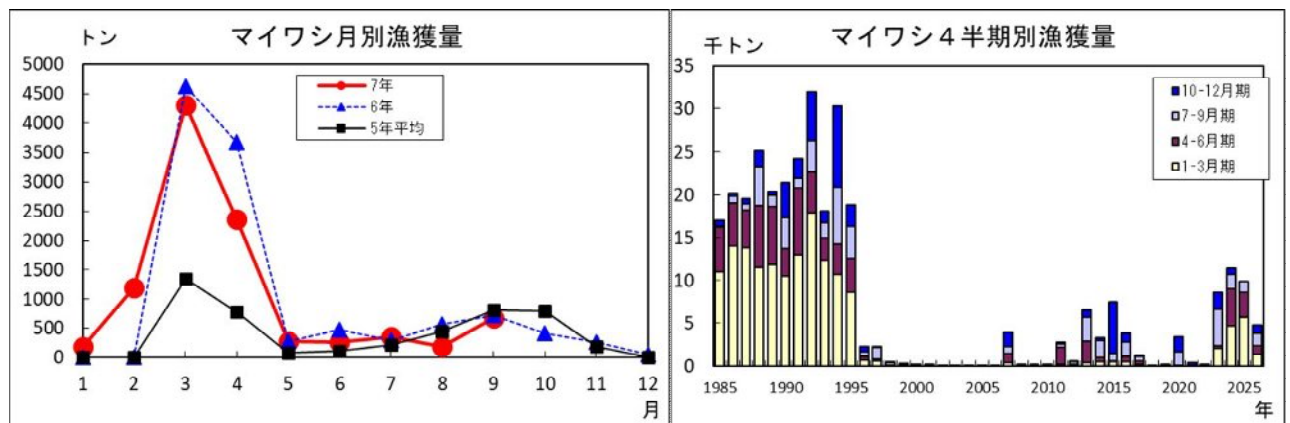


図 マイワシまき網漁獲量変化（4港計）

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2023年の漁獲量は8万9千トンとなりました。

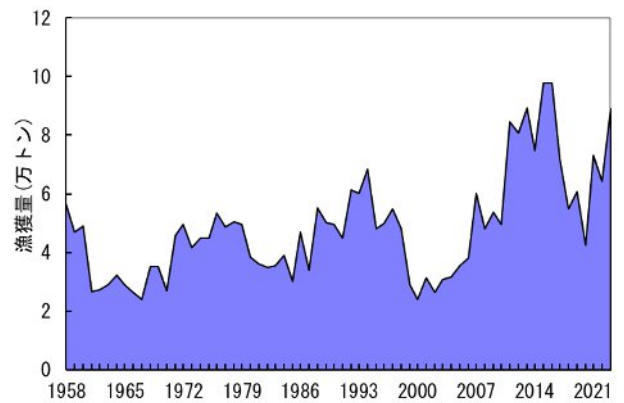


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の 2025 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、甑東、縄瀬、牛深に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池、竹島、馬毛に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小～中羽（0～1 歳魚：2024～25 年）主体に 823 トンの水揚げで、前年の 66% 及び平年の 90% でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0～1 歳魚：2024～25 年）主体に 277 トンの水揚げで、前年の 75% 及び平年の 38% でした。

3. 県内の 2025 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：10～12 月は小～中羽（0 歳魚：2025 年）主体

来遊量：前年，平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年，平年を上回ると考えられます。

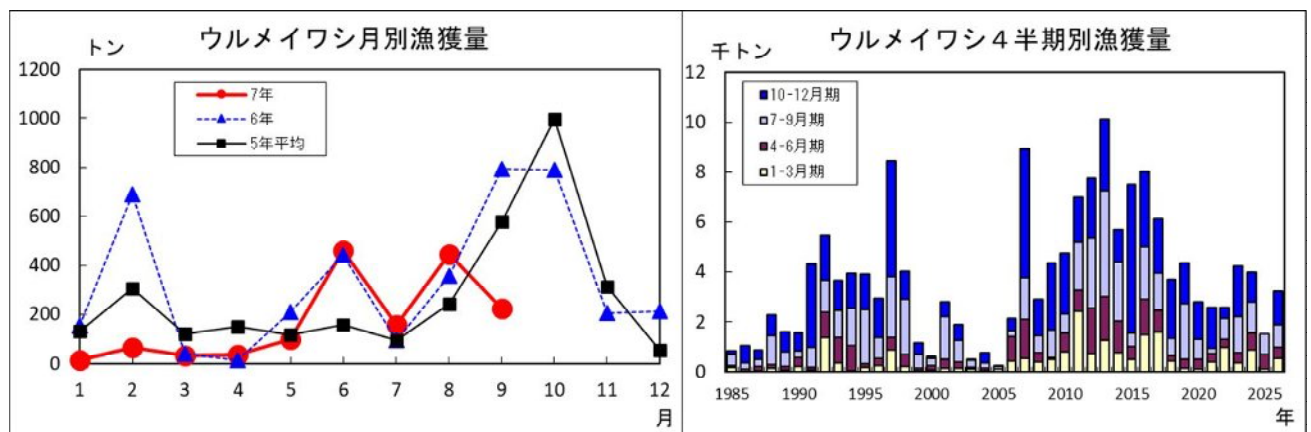


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2023年は11万2千トンとなりました。

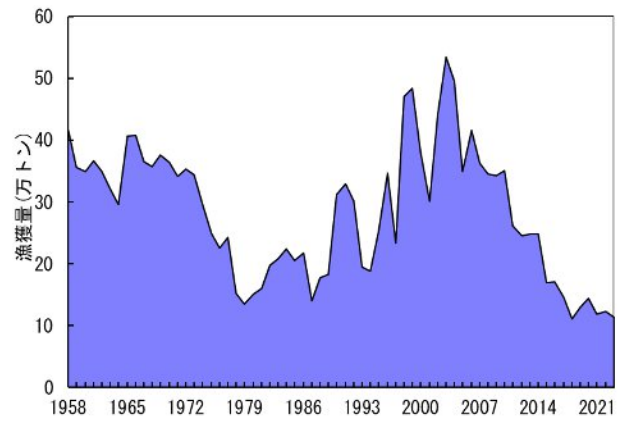


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の 2025 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島下で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 12 トンの水揚げで、前年の 4% 及び平年の 3% でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 6 トンの水揚げで、前年の 36% 及び平年の 8% でした。

3. 県内の 2025 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1 歳魚：2024～2025 年）

来遊量：前年，平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年，平年下回ると考えられます。

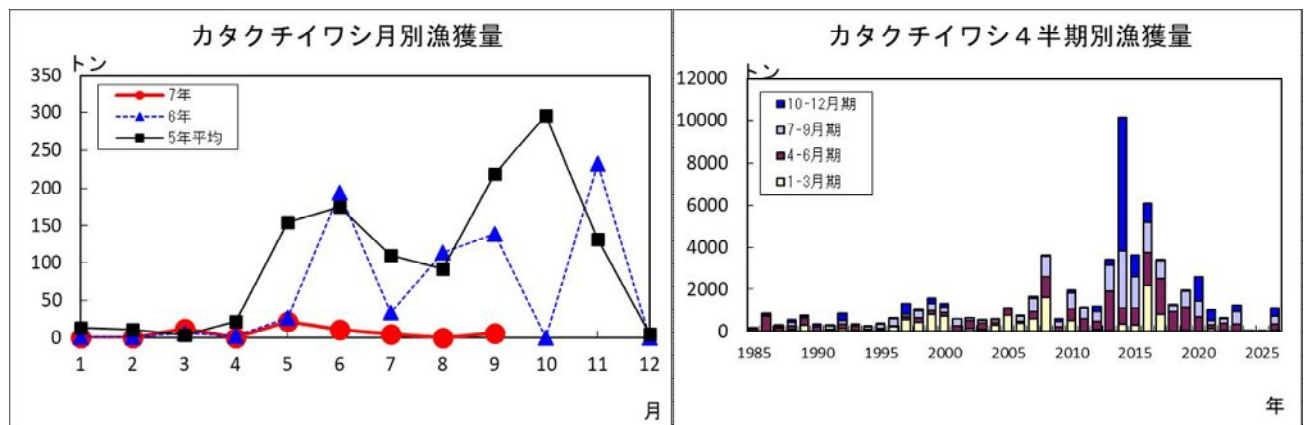


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

[イワシ類参考資料]

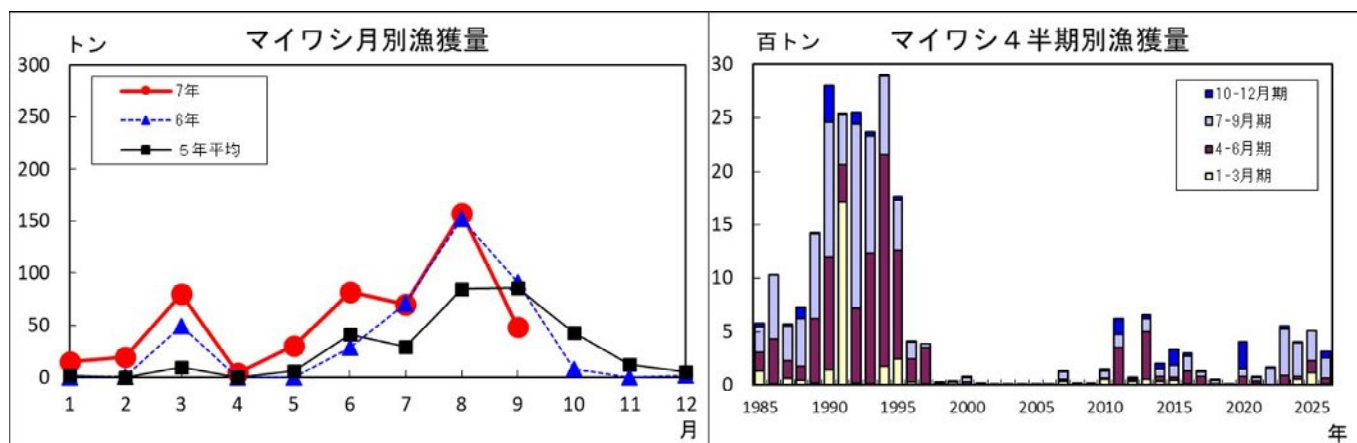


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

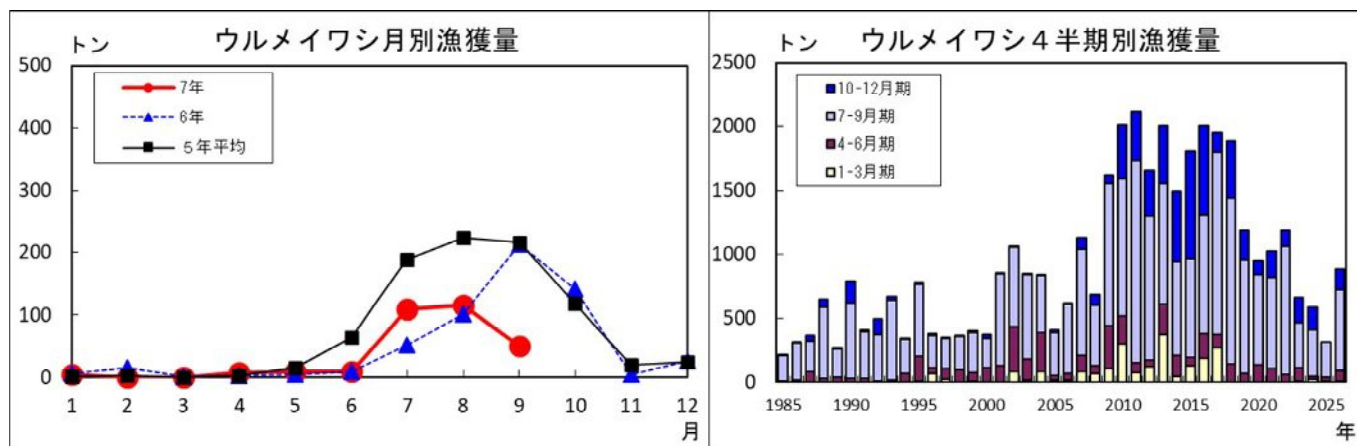


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

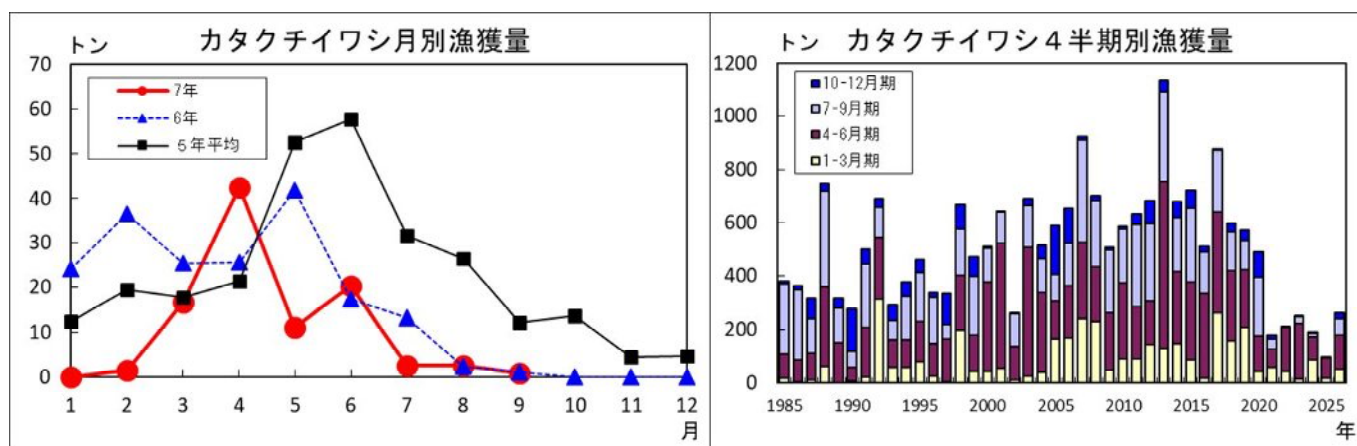


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002, 2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2024年は91トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022年から漁獲量が減少し、2024年は302トンの漁獲量となりました。

2. 2025年6～8月の漁況の経過

西薩海域では、漁獲はありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に25トンの水揚げで、前年比26%、平年比50%でした。

3. 2025年10～12月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

西薩海域の来遊漁は、前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域の来遊漁は、前年・平年を下回ると考えられます。

(根拠)

西薩海域の直近の漁模様から前年、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域の直近の漁模様から前年、平年を下回ると考えられます。

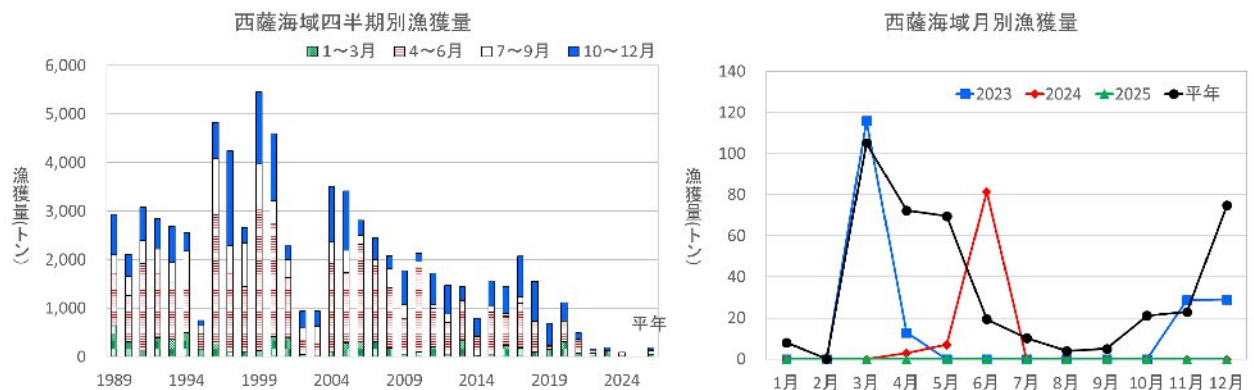


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (4漁協計)

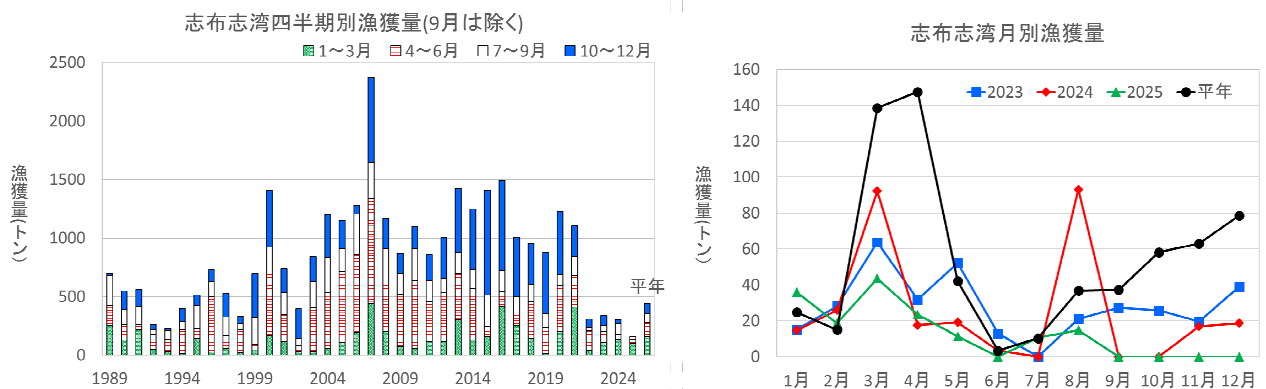


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2025年8月31日までの水揚げ量を使用

[ムロアジ類]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2024年は1,545トンとなりました。

2. 県内の2025年7～9月期の漁況の経過

8月に津倉、湯瀬にて漁場が形成されました。銘柄別では、クサヤモロ中小・小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では634トンの水揚げで、前年比166%、平年比270%でした。

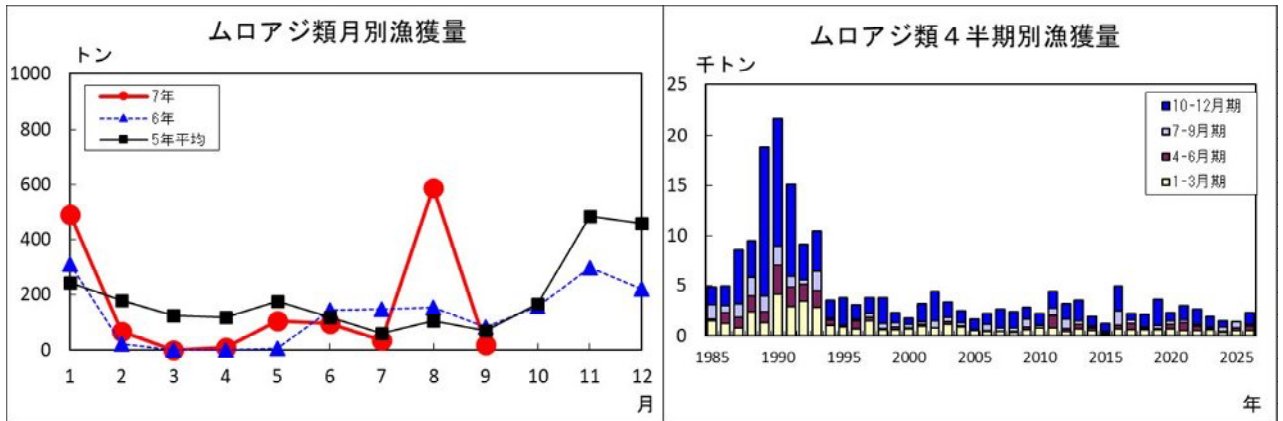


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し、2024年は279トンでした。

2. 県内の2025年7～9月期の漁況の経過

8月に枕崎沖 久志で漁場が形成されました。銘柄別では小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網で29トンの水揚げで、前年比75%、平年比30%でした。

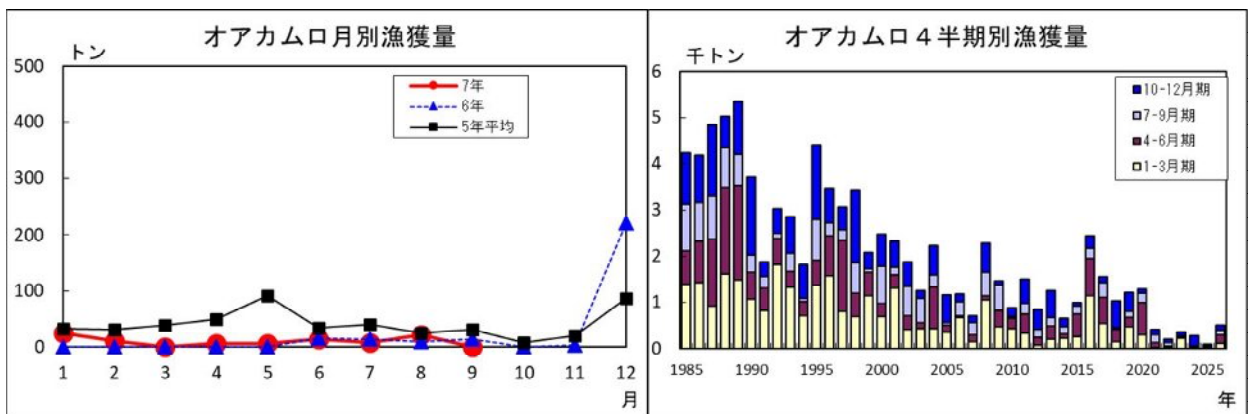


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

[マルアジ]

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2024年は477トンとなりました。

2. 県内の2025年7～9月期の漁況の経過

7月に串木野沖で漁場が形成されました。銘柄別では、豆銘柄が主に漁獲されました。4港計のまき網では21トンの水揚げで、前年比53%、平年比58%でした。

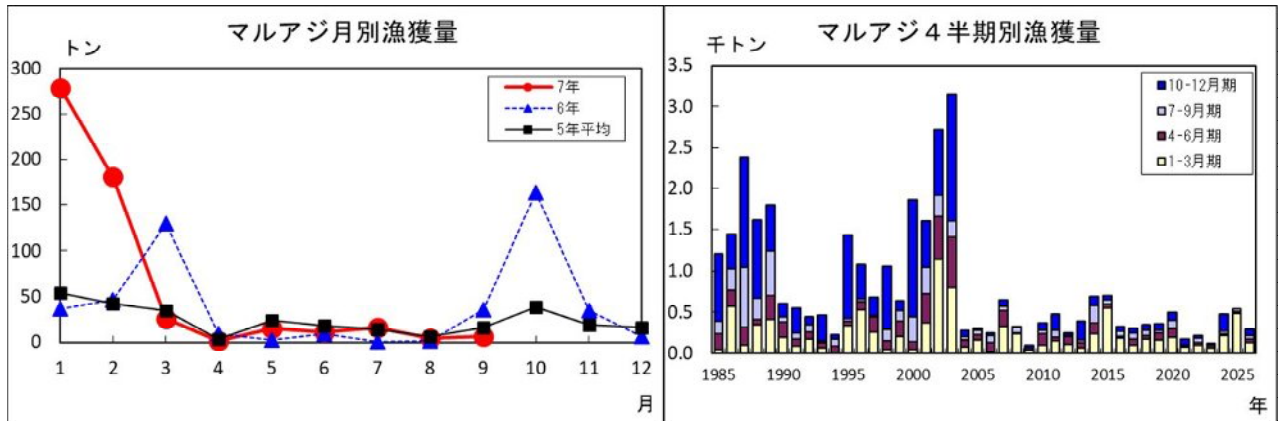


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）